

三條別院のご案内

三條別院に想う

この原稿の依頼を受け、「自分にとって三條別院とは」と改めて考えてみました。常日頃、私個人として別院に参詣したことは殆どありません。距離的にはそんなに遠くはなく、どちらかと言えば、近距離に住んで居るにもかかわらず、足が遠のいてしまっている自分です。ここ数年間は、組の役をお引き受けしている関係で、年何回かの教務所での会議等に出席し、その折に本堂で参拝させていただきますが、その位です。

別院報恩講には、毎年、組の団体参詣人の一人として、お参りさせて頂いております。その度に、期間中、多くの時間を割いてお手伝いされ、聖人のみ教えを身をもって実践されている、顔見知りの推進員の方、門徒会の方々にお会いします。本堂に頭の下がる思いです。

報恩講が、多くの方々のご協力や、お力によって毎年厳修されていることは、やはり参詣しなくてはわかりません。

では、自分はどうなのか……？

と問いなおしてみます。自坊の諸行事や、寺役の多忙を口実に、なかなか足が向きません。私事で京都に行った折々には上山し、参詣しますが……。

そう考えると、「身近な存在であるべき別院が、遠いものになっていくのだなあ」と気づかされま

す。と、ここまで書き進めて読み返してみますと、自分のいたらなきの

反省ばかりに終始してしまっています。

私にとって、この原稿の依頼に感謝しなければなりません。別院、寺、ご門徒の方々々々、文章に出来なかつた数多くの思い、問題を考えさせられるきっかけとなりました。

これを機に、別院が三條のこの地におかれた願い、又その意義をご門徒さん方にお話しし乍ら、共に参詣できたらと思っております。

(第十四組明行寺 小室昭博 氏)

○次回の「三條別院に想う」は、

徳田 峰隆 氏 (第十五組 真淨寺) より

ご執筆いただきます

■春彼岸会・東日本大震災追弔法会厳修

去る、三月十七日から十九日にかけて三條別院春彼岸会が執り行われました。

例年の春彼岸に加え、十八日には東日本大震災犠牲者追弔法会と全戦争犠牲者追弔法会が厳修されました。厳冬の本年、いまだ寒さがひかぬ中、沢山の方にご参詣いただきました。

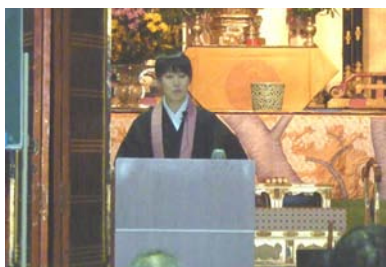
若手僧侶の法話をお聞きしたいという声があり、

十七日の速夜法要の法話講師には第十五組光正寺の駒澤暁子氏、十九日には第十九組玄證寺の藤田賢哉氏にお話しただき



【内陣に教区内僧侶、外陣に三條声明会の加勢を得て法要を厳修した】

ました。十八日は午前中の永代経総経に引き続き、午後二時から東日本大震災犠牲者の、三時四十五分から全戦争犠牲者の追弔法要を行い、放射性廃棄物の処理をめぐるドキュメンタリー映画「二〇〇〇年後の安全」上映と、仏青年志会や坊守会のおしるこの振舞い、被災地の活動の写真報告などを行いました。法話講師は仙台教区駐在教導の張崎貴裕氏にお願いし、報道などではわからない現地の生の話をお聞きしました。



【春彼岸法話をしていただいた駒澤氏 (上)、藤田氏 (下)】

《東日本大震災犠牲者追弔法会 表旨》

本日、恭しく、尊前を荘厳し、謹んで三條別院「東日本大震災犠牲者追弔法会」をお勤め致します。

昨年三月十一日、突然の大地震とその後おそった大津波は、想像を遙かに超える災禍をもたらし、原子力発電所の爆発事故をも引き起こしました。一年を経た今日、一万五千八百五十四名の尊い生命が失われ、未だ三千百五十五名の行方不明者がおられます(三月十八日現在)。沢山の方々

が傷つき悲しむ、未曾有の大災害となりました。科学技術の発達の中にあいながら、いよいよ生死無常愛別離苦の苦悩のただ中に生きていることを思わずにはおられません。

殊に、人災ともいわれる原子力発電所の事故は、自らの快適さ便利さを求める生活を追求するあまり、大きな問題を見過ごしてきたことを私たちに気付かせました。

この度一周忌法要にあたり、「東日本大震災」という大きな悲しみをしっかりと心に刻むことを縁として、仏恩の深きことを念じ、人として生きるこの意味に目覚め、共に、お念仏の大道を歩まんことを敬つて申す。

二〇一二年三月十八日

真宗大谷派 三條別院 輻審 釋 幸雄



【張崎氏は会津若松市生まれで、仙台教区駐在教導を9年勤められている】

■キッズ福島・イン・三條開催

去る三月二十五日から二十七日まで、仙台教区

東日本大震災復興本部企画で、福島県から五名の子ども達と三名の保護者の方々が、三條別院に遊びに来ました。あいにくの悪天候の中、一日目は仏青年志会が同朋会館



【初日は仙台教区のスタッフと、仏青年志会とが協力して取り組んだ】

で子どもたちと遊び、お風呂に入り、手づくりの料理を振舞いました。二日目は自由行動で水族館等に行き、三日目は第十八組重蓮寺関崎智弥氏が務める燕市「子どもの森」で遊びました。

子ども達にとって、福島から離れた地で、ただ、のびのびと遊ぶという体験が必要とされているようです。福島の隣県にある別院として、当別院の果たすべき役割を意識させられた三日間でした。

■別院声明教室のご案内

「声明を学べる場を」という要望が募り、昨年度から声明教室を再開いたしました。前回は宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌での同朋唱和の内容を中心に研鑽が行われましたが、本年度は、日常のお勤めと得度考査に向けての内容で計画しております。

◇開催日 五月 二日・十六日・三十日
六月 十三日・二十七日
全五回(隔週水曜日)

◇時間 午後六時より午後八時まで

◇会場 教区同朋会館(三條別院内)

◇講習内容 正信偈 草四句目下
念仏讚 洵三
和讃 弥陀成仏のこのかたは
次第六首

◇講師 回向 願以此功德
中富 正純氏(第二十三組福照寺)

◇持ち物 『真宗大谷派勤行集』または『大谷聲明集 上』、念珠、筆記具

◇参加費 五〇〇円/回

◇申込方法 お電話か同封しておりますチラシの申込用紙にご記入し、郵送またはFAXで

お申込みください。

◇締切 四月二十五日(水) 必着

■御命日(二十八日)の集い

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会の場を開いております。

どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣をお待ち申し上げます。

なお、前日(二十七日)はお速夜法要を、午後一時三十分よりお勤めをしております。

【四月二十八日(土)】

午前十時 お勤め(御命日 日中法要)

文類偈 行四句目下

念仏讃 淘五

和讃 回口 次第六首

回向 願以此功德

◎今月の法話講師

泉 智慶 氏 (第二十三組 慶誓寺)

◇今後の講師一覧

五月 武樋 隆如 氏 (第十四組 蓮光寺)

六月 松野 祐 氏 (第十三組 善行寺)

■定例法話会のご案内

毎月十三日には、「両度の命日」と呼ばれている前門首のご命日です。また、蓮如上人も御文中で、この「両度の命日」についてお書きになられています。(四帖目十二通)

三条別院の一番古い建造物である旧御堂で仏法に触れるひと時を味わいませんか。

皆様、お気軽にお越しください。

◇日 時 毎月十三日 ※八月、一月は除く
午後一時三十分より(約一時間程度)

◇場 所 三条別院 旧御堂

◇御講師

二月～四月

塚本 智光 氏(第十八組 等蓮寺)

五月～七月

赤沼 義昭 氏(第十三組 西方寺)

※塚本・赤沼両氏には、三ヶ月にわたって法話をいただきます

■三条別院巡回について

かつて三条別院の御影をお迎えし、各ご門徒のお宅で聞法会が頻繁に行われておりました。しかし、時代の流れや、世代の交代で今では数えるほどしか行われていません。

ご門徒の皆様をはじめ有縁の方にご案内いただき、三条別院御影巡回がより多くの方々のお念仏をいただける場となるご縁となりますことを、願っております。

※曜日・時間等は昼夜問わず、皆様のお仕事の後などご相談させていただきます。

■三条別院有志の会について

三条別院では「有志の会」と称し法話や座談会(茶話会)など、近隣の方をはじめ、有縁の方にお集りいただいております。

現在十余名の有志の皆様によって活動しておりますが、「三条別院有志の会」では、より多くの方にご参加賜りたく、新たな参加者を募っております。お気軽にどなた様でもご来院くださいますようお願い申し上げます。お問い合わせは三条別院まで。

■三条別院非常勤嘱託募集について

全寺院に既に案内させていただきました非常勤嘱託を、引き続き募集いたします。詳細・履歴書につきましては、当別院までご連絡ください。

一、募集人数 若干人

二、勤務先 真宗大谷派三条別院

三、職種 列座業務

四、勤務時間 月十五日程度 平常午前六時から八時まで 諸法要及び土日祝日に出勤の場合(月一回程度)は、その限りではない。

五、任期 一年 但し、再任を妨げない

六、応募資格 ①真宗大谷派の僧侶 ②儀式・声明を学ぶ意欲がある者

七、その他 定員になり次第、募集を締め切らせていただきます。

◇◇編集後記◇◇

前述の通り、福島から子ども達が春休みを使つて三条別院にやってきた。

二泊三日の短い間の事であったが、何より子ども達が楽しそうに過ごしていた姿が何よりだった。…と言いたいのだが、その子ども達がこれから帰るのは、思う存分外で遊ぶこともできない所である。子どもたちがバスの中から見る景色はどのように映るのだろうかと考えてしまう。

彼らが帰り際に「また新潟に来たらお兄ちゃん達ここにいるんだね?」という言葉をかけてくれた。

今度は「お兄ちゃん」が訪ねて行くことと思う。

(松浦)

★別院メールアドレスができました。

・sanjo-betsuin@wing.ocn.ne.jp